

聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院に入院された 患者様・御家族の皆様へ

「当院救命救急センターにおける耐性菌“持ち込み”症例の評価および当該施設の 感染管理に関する観察研究」について

(1) 研究の目的

近年、薬剤耐性は公衆衛生上の重要な問題とされており、なかでも『高齢者施設等における抗微生物薬の使用実態に関する研究』が重点事項としてあげられています。

本研究は、急性期病院の集中治療室(Intensive Care Unit, ICU)や高度治療室(High Care Unit, HCU)に入院してくる患者様のうち他施設からの転入症例について、患者様の入院中の薬剤耐性菌の検出状況、および他施設における感染予防・管理の状況を調査して、薬剤耐性菌の疫学的状況と高齢者施設等の感染予防・管理の状況の関連性を検証する研究です。高齢化が進むなか、他施設からの薬剤耐性菌のいわゆる“持ち込み”の疫学的理解を深めることは患者安全の視点からも極めて重要です。

(2) 研究対象について

対象となる患者様は、2017年4月1日から2024年3月31日までに当院に入院された18歳以上の患者様で、検体検査にてメチシリン耐性黄色ぶどう球菌、バンコマイシン耐性腸球菌、extended-spectrum β -lactamase(ESBL)産生菌、カルバペネム耐性細菌、クロストリジウム・ディフィシル細菌が陽性となった患者様となります。

年齢、性別、検査結果、入院期間、転機、入院中の抗菌薬治療歴、治療内容等が記録されます。また、承認後以降の対象患者様につきましては、通常の診療における検査にて分離された菌を保管し、解析させていただきます。菌についての解析は行いますが、患者様の遺伝子検査ではありません。

本調査は純粋な観察研究であり、患者様への直接的な介入や侵襲はなく、いかなる利益・不利益も生じません。

(3) プライバシーの保護について

この研究では個人を特定できるような情報は一切登録されません。

(4) 研究結果の公表について

研究結果は、医学研究雑誌や学会等で発表される予定ですが、個人を特定できる情報は一切含まれませんのでご安心ください。

※この調査の対象となられる方で、ご自分あるいは御家族の情報を登録したくない場合は2024年3月31日までに下記連絡先までご連絡下さい。除外を希望される患者様の情報は削除し、研究データとして使用することはありません。なお、お申し出がなかった場合には、参加を了承していただいたものとさせていただきます。

連絡先 聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院 救命救急センター 齋藤浩輝 PHS 8150

住 所：〒241-0811 横浜市旭区矢指町 1197-1 電 話：045-366-1111